

第4回 東京都感染症対策連絡会議

令和5年8月3日（木） 午後2時30分
東京都庁第一本庁舎42階 特別会議室B

【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】

それでは、第4回東京都感染症対策連絡会議を開催いたします。私は本日の進行を務めさせていただきます、保健医療局感染症対策調整担当部長の内藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はお忙しいところ連絡会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。委員の出席者のご紹介につきましては、お手元に配布させていただきました出席者名簿で代えさせていただきます。

また、本日は感染症の専門家の先生方にお越しいただいておりますので、ご紹介いたします。

感染症医療体制戦略ボードのメンバーであります、大曲先生でございます。

医療体制戦略監の上田先生でございます。

東京iCDCからは所長の賀来先生にご出席いただいております。

それでは議事に先立ちまして、座長の黒沼副知事からご挨拶をいただきます。よろしくお願いたします。

【黒沼副知事】

それでは会議の冒頭に一言ご挨拶申し上げます。

連日、非常に危険な暑さ、猛暑が続いております。例年、夏季は気温の上昇とともに、熱中症による救急要請が増加をいたします。新型コロナウイルス感染症の感染者数は、定点ベースではございますが、増加をしております。コロナ以外の感染症の状況にも注視が必要な状況となっております。医療現場の方々には、日々の献身的なご尽力に改めて感謝申し上げます。本日は、新型コロナウイルスのモニタリング分析の他、夏季に流行します、O157に代表されます腸管出血性大腸菌感染症などについて報告がございます。また、本日は先ほどご紹介いただきました、感染症医療体制戦略ボードの大曲先生、医療体制戦略監の上田先生、東京iCDC所長の賀来先生にもお忙しい中ご出席賜っております。御礼申し上げます。

引き続き都民の命を守るため、専門家の皆様のご知見をいただきながら、庁内及び関係機関との連携を密にし、感染症全般への対策を適時適切に進めてまいります。私からは以上です。

【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】

ありがとうございました。それでは次に最新のモニタリング分析について、専門家の先生方からご説明をいただければと存じます。それではまず大曲先生、よろしくお願いいたします。

【大曲先生】

ありがとうございます。それでは、モニタリングの報告をしてみたいと思います。

手元の資料を1枚おめくりいただきまして、グラフの方から見ていきたいと思っております。

まずは感染動向でありまして、1番の「定点医療機関当たり患者報告数」、①の1ですね。こちらですけれども、報告数は前週が1定点あたり9.35で、今回は11.12と増加をしております。今週・先週比を見ますと、118.9%。こちらは前回を見ますと、113.3%であります。高齢者等のハイリスク者への感染拡大に注意が必要であります。

次は、①の2です。「60歳以上の定点医療機関当たりの患者報告数」でございます。60歳以上の報告数でありますけれども、前回は定点あたり1.34、今回は1.82と増加をしております。今週・先週比は136.3%であります。夏休み、お盆、そして帰省等で高齢の方と会う場合、あるいは大人数で集まる場合には、換気、手洗い、そして場面に応じたマスクの着用などの感染防止対策を心がけることが望ましいです。また、体調が悪いときには外出を控えることが望ましいです。また、リスクの高い高齢者等は、重症化の予防のためにできるだけ早くワクチンを接種することが望ましいです。

次①の3です。「定点医療機関当たり年代別患者報告数」であります。こちらはすべての年代で前週よりも増加をしております。

若い世代、そして基礎疾患がない方であっても、咳ですとか、あるいはだるさや倦怠感などの後遺症が出現するリスクがあります。こちらは引き続き都民にお知らせしていく必要がございます。

次は①の4です。こちら「定点医療機関当たり患者報告数」を保健所区域別にみたものでございますが、31の地区の中で22の地区で前週よりも増加しております。

次は②です。「#7119における発熱等相談件数」でございます。この件数は、前週の157.0件から今週は146.9件と、高い水準で横ばいとなっております。また、東京都の新型コロナの相談センターの相談件数も出ておりますが、こちらは前回は一日当たり1,047件、今回は一日当たり987件となっております。

次に医療提供体制の負荷を見てまいります。まずは③の「救急医療の東京ルール適用件数」でございます。こちら前週が148.7件で、今回144.7件であります。コロナの流行前と比べますと、高い水準で横ばいという状況でございます。コロナ以外の熱中症等の発熱患者さんも引き続き多く出ております。感染対策を要するため、救急医療への負荷がかかっております。

東京消防庁では、緊急性の高い傷病者を優先する重症対応救急小隊を編成して必要に応じて対応しております。また、救急の出動件数であります。3,000件に近い数値で推移し

ております。「救急車ひっ迫アラート」が発表される日も実際に発生しております。

都民に対して、受診を迷われた場合には、東京都の新型コロナ相談センター、#7119、小児の救急相談#8000、これらが利用できることを周知するなど、引き続き救急車の適時適切な利用を呼びかける必要がございます。

次に④です。「入院患者数」でございます。こちら前週が1,554人、今週は1,757人と増加が目立ってきております。一方、確保病床以外での入院患者さんの受け入れについても見ております。こちら直近のデータ、令和5年7月26日の時点でございますが、およそ3割でございます。更に幅広い医療機関での入院の受け入れが促進されることが望ましいと考えております。

私から以上でございます。

【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】

ありがとうございました。続きまして、変異株の状況について、賀来先生お願いいたします。

【賀来先生】

次に変異株について報告させていただきます。「病原体サーベイランス（ゲノム解析）」という資料でございます。こちらの資料はゲノム解析結果の推移について、直近6週間の動きを示したものです。

世界で主流のXBB系統は、都内でも引き続き主流となっており、7月10日から7月16日までの週では、全体の93.0%を占めております。XBB系統の亜系統別では、7月3日から7月9日までの週と、7月10日から7月16日までの週を割合の高い順で比較しますと、XBB.1.16系統が28.7%から0.7%減って28.0%、XBB.2.3系統が10.4%から6.6%増えて17.0%、XBB.1.91系統が12.2%から2.8%増えて15.0%、XBB.1.92系統の亜系統であるEG.5系統が14.8%から2.8%減って12.0%、XBB.1.5系統が9.6%から0.6%減って9.0%、XBB.1.92系統が6.1%から0.9%増えて7.0%、その他のXBB系統は8.7%から3.7%減って5.0%となっております。

東京iCDCでは、引き続きゲノム解析により変異株の動向を監視してまいりたいと思っております。

私からの報告は以上になります。

【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】

ありがとうございました。次に、新型コロナ以外の感染症の状況及び都の対応につきまして、保健医療局西塚感染症対策調整担当部長よりご説明いたします。

【保健医療局 西塚感染症対策調整担当部長】

資料2を用いまして、特に8月に注意が必要な感染症についてご説明させていただきます。資料2、1枚目であります。はじめに子供を中心に流行する感染症、いわゆる夏風邪であります。

すでに警報レベルを超えているヘルパンギーナ及びRSウイルス感染症であります。いずれも4週間連続減少しております。ヘルパンギーナにつきましては、引き続き解除基準2.0まで下がりきっておりません。今後も感染の再拡大や別の夏風邪ウイルス、手足口病などが流行することもあるため、引き続き都としては基本的な感染対策の継続を呼びかけてまいります。

続いて2ページ目であります。腸管出血性大腸菌感染症であります。

気温の上昇に伴いまして、サルモネラや大腸菌など食中毒菌が増加しやすい状況になっております。腸管出血性大腸菌感染症も夏場に増える傾向があります。代表的な血清型ではO157、その他にO26、O111等がございます。

主な症状でございますが、多くの場合、無症状若しくは軽症でございますが、稀に激しい腹痛、水様の下痢、血便等を生じ、6~7%の方に溶血性尿毒症症候群を引き起こし、腎不全等につながる場合があります。特に高齢者やお子様ではこういった症状に注意が必要となっております。

3ページ目をご覧ください。腸管出血性大腸菌の主な感染経路であります。

主に食べ物による食中毒や手を介したヒトヒト感染が報告されております。原因食品であります。加熱が不十分な牛肉等が原因となった事例が報告されております。

また、発生状況であります。左下、年次で見えております。令和元年、令和二年、三年、四年と、少し減っているように見えますが、コロナ禍でも都内で年間350件ほど報告が続いております。

今年も7月30日までで184件ということで、これから8月に向けて患者数が増えることが懸念されております。

最後4ページでございます。予防と対策であります。主な対策は三点であります。

1つは、調理や食事前の手洗い。2つ目は調理器具、特に生肉と焼肉を取り分ける器具を使い分けること。3つ目としては、食材をよく加熱することでございます。

腸管出血性大腸菌感染症に関する情報は、東京都感染症情報センターで提供してございます。報告は以上です。

【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】

ありがとうございました。議事は以上となります。

それでは本日お越しいただきありがとうございます。専門家の先生方から全体を通じてコメントいただければと思います。まず大曲先生、いかがでしょうか。

【大曲先生】

ありがとうございます。私の方から新型コロナに関してコメントしたいと思います。

1 定点あたりの患者報告数が上がってきている、あるいは今週・先週比も上がってきているというのは、大変気にしているところではあります。入院の患者数も上がってきているところも我々現場でも気にしております。

その中で、今日もお話ししましたが、いわゆる確保病床以外で入院を受け入れていただいている患者さんが3割いらっしゃるというのは、我々としては非常にありがたいと思っております。

というのも、やはりこれからコロナの対応を一般的に医療として受け入れていく中で、いわゆる確保病床以外での医療機関でどれだけ受けていただけるかというのは非常に重要なところでありまして。それはどれぐらい広がっていくのかというのは、我々非常に気にしていたわけですが、このような数字が出てきて非常にありがたいと思っておりますし、さらに多くのこれまでコロナの入院を受けてこれなかった医療機関で受けていただけると、もっと良いのではないかと考えております。私からは以上です。

【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】

ありがとうございます。続きまして上田先生、いかがでしょうか。

【上田先生】

新型コロナウイルス感染症の状況であります。先ほど大曲先生からもご説明がありましたように、患者報告数が増加しております。中でも重症化リスクの高い高齢者の増加が目立っており、今後の動向に注意が必要だと思っております。

コロナ感染患者数の増加とともに、入院患者数の増加傾向が続いております。まだ入院病床のひっ迫という状況ではないものの、さらに入院患者が増加することを見込み、都立病院におきましては通常医療の両立を図りながらコロナ患者用の病床の拡大を行っております。

東京都からも先週依頼したところではありますが、都内の各医療機関につきましては、コロナ患者の積極的な受け入れをお願いいたします。

続いて、子供を中心に流行するヘルパンギーナやRSウイルス等の感染状況についてですが、先ほどの資料のとおり、都内における感染患者報告数は減少してきております。しかし、小児科において夏休みは検査や手術等の予定入院が増え、感染症流行による病床のひっ迫が生じやすい状況にあります。都立病院では、効率的・効果的な外来・入院病床の運用により、コロナ患者を含む小児感染症患者の積極的な受け入れを行ってまいります。

これからお盆の時期を迎えるにあたり、帰省や旅行等で高齢の方と会う場面や、大人数で集まる機会が増えることと思っております。大曲先生からもお話がありましたが、熱中症対策に加え、基本的な感染防止対策を心がけ、楽しい夏休みを過ごしていただければと思います。

今後の感染状況、救急医療の状況、医療提供体制の状況等を注視して、東京都として適切な対応を実施してまいります。私からは以上です。

【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】

ありがとうございました。続いて賀来先生、いかがでしょうか。

【賀来先生】

私からは総括的なコメントをさせていただきます。本日は新型コロナウイルスのモニタリングの状況やヘルパンギーナ等の感染症、また夏季に注意が必要な腸管出血性大腸菌についてご報告を頂きました。

先ほど二人の先生が述べられましたが、新型コロナのモニタリング状況については、定点医療機関当たりの患者報告数が増加しており、特に60歳以上の年代で増加が見られています。高齢者等、ハイリスク者への感染拡大注意が必要であると考えられます。

医療提供体制に関しては、入院患者数が増加しており、引き続き状況を注視する必要があるとともに、コロナ以外の発熱患者も引き続き多く、救急医療に負荷がかかっているとのことでした。

今後、夏休みシーズンを迎え、旅行や帰省等、重症化リスクの高い高齢者と会う機会や大人数で集まる場合が増えることが考えられます。換気や手洗い、場面に応じたマスクの着用などの感染防止対策を是非とも心がけていただきたいと思います。また、リスクの高い高齢者の方は、重症化予防効果があるワクチンの接種をご検討いただければと思います。

ヘルパンギーナ、RSウイルスの患者数に関しては、一時期よりもだいぶ減少しておりますが、引き続き手洗い、うがい、咳エチケットといった基本的な感染対策の徹底が必要です。

また、O157に代表される腸管出血性大腸菌感染症は、感染した場合、腹痛や血便等に苦しむだけでなく、重篤な合併症を起こすと死に至ることもあります。主な感染経路は、生肉等の飲食物を介した経口感染となっており、例年夏場の発生が多くなっております。バーベキューやキャンプ等の機会も増える季節かと思えます。都民の皆さまにもご注意くださいながら楽しんでいただきたいと思います。

東京 iCDC では、今後も東京都が新型コロナをはじめ、様々な感染症への対策を進めるにあたり、専門家の立場から必要な分析や助言を行い、都の取組を支えてまいりたいと思えます。私からは以上です。

【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】

先生方ありがとうございました。最後に委員の皆様、何かご発言、ご質問はございますでしょうか。

それでは、今後とも関係者の間で情報共有を図りながら、感染症に適切に対応してまいりたいと思えますので、引き続きよろしく願いいたします。

以上をもちまして、第4回東京都感染症対策連絡会議を閉会とさせていただきます。

本日はありがとうございました。